

命について

中学二年 藤井 絢斗

夏休みに家族とお寺に行った時、説法を聞いた。仏教では、命の大切さや尊厳をとっても大事にしているのだという。人間だけでなく、動物や植物にもそれぞれの命があるということを学んだ。命は本当に尊いものだと思った。さらに、お坊さんから「命はつながっている」という言葉も聞いた。その意味はよく分からなかったけれど、話を聞いているうちに少しずつ理解できるようになった。私たちが生きていく限り、他の生き物たちにも影響を与えているらしい。だから、命を大切にすることは、他の生き物たちや自然環境にも大事なことなんだと思うようになった。

お寺では、お経も聞くことができた。お経の中にもたくさんのお命についての教えがあるそう。命を大切にし、他者を思いやる心を持つことが、人間として大切なことなんだと感じた。夏休みにお寺に行ったことで、命について深く考えるきっかけをもらったと思う。

夏休みにお寺に行ったことで、命の尊さやつながりの大切さを改めて学んだ。これからも、他の生き物たちや自然環境と共に生きることを意識して、命を大切にしていきたいと思う。仏教の教えはとても

深いけれど、少しずつ自分の生活の中に取り入れていきたいと思う。命について考えることで、自分の生活や周りの環境に対する意識が変わり、より豊かな心を持つことができると感じた。お寺で学んだことは、私の人生にとって貴重な宝物となりました。命の尊さを大切に、他者と共に喜びや悩みを分かち合いながら生きることが、どれだけ大切なことを改めて気付かされました。これからも、命の大切さを忘れず、仏教の教えに心を向けながら、成長していきたいと思えます。命はつながっている。そのつながりを大切にし、自分自身を含む全ての生命に感謝の気持ちを持ちながら、生きていきたいです。命について考えることで、より豊かな心を育むことができるのだと感じました。夏休みお寺に行ったことが私にとって大きな学びとなり、また大きな人生の一步となりました。お寺では心を落ち着かせる貴重な経験を体験できた。命がつながり合い、共に生きる喜びや感謝の気持ちを強く持つことができた。これからも、命の尊さを忘れずに、生きる喜びを感じながら、周りの人々や動物たちと共に歩んでいきたいと私は思いました。